

及國債ノ募集
及國債ノ方法
紙幣發行
等ノ法案ハ

國會規則

第一章 總則

第一條 國會ハ元老院第1部 權限民撰議院ノ西局ヲ以テ組成ス

元老院ヲ上院ト稱シ民撰議院ヲ下院ト稱ス

第二條 凡ソ直接ニ人民ノ身體財產ニ干涉スル法律規

則ノ新設廢棄改正ニ必ス先ツ國會ノ議決ヲ經

テ皇陛下勅裁ヲ得式ニ依リ布告シ始テ其効力

ヲルモノトス

第三條 凡ソ國會ノ議スヘキ議案ハ内閣議依リ
起草シ

新

參事院之^{起草}審查

天皇御可^批ヲ得テ之ヲ國會^{下付}提出スルモノトス其

母^最初ニ提出ス

第四條 凡ソ議案ヲ内閣ヨリ初^{下付}ラ提出スルニハ西院ノ中

何レノ院ニ下付スルモ内閣ノ便宜ニ依ル但シ租稅

關スル議案ハ必先ツ民^下撰議院ニ下付スルモノトス

第五條 凡ソ國會ニ於テ議^定決シタル議案トイハレ政府ニ於

テ實施スヘカラスト認^白ムルトキハ更ニ意見ヲ付シテ再

議セシムルコトヲ得^下ル再議ノ議決^定仍ホ政府ノ意見ニ

和合セサルトキハ之ヲ廢案ト為スコトヲ得但シ本年
ノ會議ニハ再ヒ同事件ノ議案ヲ登スルヲ得ス

第六條 凡ソ一議案西院ノ議定ヲ異ニシ到底悞議

調和セサルトキハ西院各自ニ其議^定書ヲ捧呈

ス此場合ニ於テ之ヲ廢棄スルカ又ハ更ニ内閣ノ意見

ヲ付シ再議ニ付スルカ又一院ノ議定ヲ採用シ他院

ノ議定ヲ廢棄スルカ都ラ

上裁ニ依ル但シ次ノ條ニ掲載スルモノハ此例ニアラス

第七條 國會規則

會計検査規則ノ增
減變更及ビ國債紙
幣ノ發行租稅ノ
増減新設ホニ関
スル法案ハ必ス兩
院ノ悞同ヲ得ルニ
テ之ヲ施行スルヲ得ス

第八條 上下兩院トモ各々其議定^ヲ以テ意見ヲ供ヘ
天皇陛下ヘ建言スルコトヲ得但シ政府下付ノ議案
ヲ議定セサル間ハ他事ヲ議スルヲ得ス

第三節 開閉

第九條 國會ハ毎年一度 月ニ之ヲ開ク之ヲ常

會ト云通常會ハ九十日以内トス通常會ノ外臨時
會議ヲ要スルコトアルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得臨時
會ハ三十日ヲ過クルヲ得ス

第十條 國會ヲ招集スルニハ少クとも三十日前月日
ヲ定メ之ヲ布告ス

第七條 國會ノ開閉ハ都テ上諭ニ依ル

第八條 會議ノ論說國ノ治案ヲ妨害シ又ハ法律規
則ヲ犯スコトアリト認ルトキハ大臣之ヲ中止シ
上裁ヲ徑テ之ヲ解散スルコトヲ得

第九條 國會ニ於テ議定スヘキ議案ヲ定期内ニ議
定セサルトキハ直ニ

上裁ヲ經テ其原案ヲ施行スルコトヲ得

第十條 國會ニ於テ議定スヘキ法律規則トイハレ
國會閉會中ニ遭遇シ臨時急施ヲ要スルト認

ルモノハ直ニ

上裁ヲ經テ施行スルコトヲ得但シ第七條掲載不諾ノ法

案ハ此例ニアラス

第十一條 前二條ノ法律ハ翌年ノ通常會ニ其議案

ヲ下付シテ議定セシムルモノトス但シ國會ニ於テ原

案ヲ修正スルモ式ニ依リ法律ト成ルマテ仍ホ原案法律

ノ効力ヲ有スルモノトス

此場合ニ於テ奉勅署名者其責任ス

第二節 豫算決算

第十三條 政府ハ毎年通常國會ニ於テ前年度ノ出

納決算ノ報告ヲ為シ翌年度ノ出納豫算ヲ核

視ニ付ス

第十三條 出納決算ノ報告其豫算ノ額ニ増減アルトキ

ハ主務卿之ヲ辨解スルノ責任ニ任セザルカラス

視ニ付ス

第十四條 會計出納ノ當否ヲ審査スル為メ國會議院議員

各院十名議院ヲ撰擧セシメ會計検査委員ト為シ

會計検査委員ノ職制章程ハ別段ノ法律ヲ以テ

之ヲ定ム

△第三節

規則

第十五條 國會規則及會計検査委員ノ職制章程

規則

第十三條 國會各院議院行政司法ノ事務
付失誤又違法ノ事アリトシテ之ヲ難存若シトシテ之ヲ辨解スルノ責任ニ任ス
國會各院ノ名議院人民ノ廣告又ハ府縣層ト從復スルヲ得ス

并ニ翌年度豫算額前年度豫算額ニ増減

參事院

程ハ國會西院ノ快同議定ヲ經テ
上裁ヲ得ルニ非レハ之ヲ増減變更スルヲ得ス
第 條 國會議員

第二章 元老院 又上院ト稱ス

第十九條 元老院ハ勅任ノ議官百名ヲ以テ組成ス但シ皇

族ハ負外トス

第二十條 元老議官ハ左ノ各項ノ一以上ニ適スルモノヨリ特

選勅任ス

一 皇族 滿十八年以上

二 華族 滿廿五年以上

三 文武官勅任官若シハ曾テ勅任官以上ニ登

リシモノ

四 下院ノ議長ヲ以テ六年以上勤績セシモノ

五 下院ノ議員
以上勤績
セシモノ

第三條 元老議員官ハ左ノ理由^ハル^ニテ^ハ免^ス

スルヲ得ス

- 一 重禁錮^ハ刑^ヲ受^ケタルモノ
- 二 身代限ノ處分^ヲ受^ケテ^ハ辨償^ノ義務^ヲ終^シテ^モ
- 三 廢疾終身不治^ノ症^{アル}モノ
- 四 自己^ノ事情^ヲ請^フ

第三條 元老議員官ハ自己ノ情請^ニテ^ハ他官^ニ轉任^スラ

得ス

第三條 元老議員官ハ國會議員^トシテ^ハ立法官^{タル}ノ外

臨時上諭^ニ依^リテ^ハ國事^ノ諮詢^{アル}トキ^ハ特^ニ會議

ヲ開キ其意見^ヲ上奏^スヘシ

第三條 元老院議員官ハ行政司法外交軍政等凡ソ國

家ノ大事^ト思考^{スル}モノ^{アル}トキ^ハ各自^ニ謁見^シ

乞^ヒ意見^ヲ上奏^{スル}ヲ得

第二節 役員選任并ニ俸給日當

第二條 議長副議長各一員ハ議員中^{ヨリ}之^ヲ特

撰^任ス

第二條 書記官六人ハ議長ノ上奏^ニ依^リテ^ハ任^ス

第廿九條 元老院議長八年俸六千圓副議長四千八

百圓議長官八千八百圓書記官三千圓以下至

百圓以上ヲ給ス

第卅條 國會開期制限中及臨時上諭ニ依リ特ニ

開會スルトキ其現開會中ニ議官ニ限リ金三四

ヲ給ス欠席ノ日ハ之ヲ給ス

第卅五條 元老議官ニ就任ノ前

天皇陛下ノ御前ニ於テ大臣宮内卿列席上定

式ノ宣誓ヲ為スヘシ

第卅六條 元老議官重罪現行犯重罪ヲラサレハ之ヲ逮捕スルコトヲ

得ス其非現行犯ニ係ル刑事被告事件付糾問ヲ要

スルコトアルトキハ豫メ理由ヲ具シ元老院議長本人出席

ノ許可ヲ乞フヘシ

第三章 民撰議院

又下院ト称ス

第三條

民撰議院第一節 負ハ各府縣ニ二人ヲ選フ郡區

西部ニ分ツ府縣ニ在テハ每部ニ各二人ヲ選フ

其人口貳拾萬ニ滿サル區部ニ在ラハ一人ヲ選フ

第三條 民撰議院負ト為ルヲ得ヘキモノハ左ノ資格ヲ

備具スルモノトス

一 日本國內ニ生レタル日本臣民ノ男子ニシテ年

齡三十才以上ノモノ

二 本府縣内ニ於テ直稅貳拾田以上三ヶ年

間断ナリ納メ来リ猶現ニ繼續シテ納

ハルモノ

三 日本國內ニ三年以上間断ナク住居シ現ニ
繼續シテ住居スルモノ

第三條^三 第^三條ノ資格ヲ備具スルモノトイヘ氏左ノ各款ノ一
ニ觸ルモノハ議負タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴者

第二款 重禁錮以上ノ刑ヲ受ケタルモノ

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償

ヲ終ヘサルモノ

第四款 軍人軍屬

第^四條 民選議負ヲ選舉スルヲ得ヘキモノハ左ノ資格
ヲ備具スルモノトス

一 日本國內ニ生レタル日本臣民ノ男子ニシテ年
齡二十才以上ノモノ

二 本府縣内ニ於テ直稅拾田以上ニテ年々
間断ナク納メ来リ猶現ニ繼續シテ納ムルモノ

三 本府縣内ニ三年以上間断ナク住居シ猶繼
續シテ現ニ住居スルモノトイヘ氏左ノ各款ノ一

第^五條 第^四條ノ資格ヲ備具スルモノトイヘ氏第^三條
ノ各款ニ觸ル者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第^五條ノ各款ニ觸ル者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第廿五條 凡ソ官吏ハ其所屬長官ノ許可ヲ得ルニテ
シテ民選議負ト為ルヲ得ス

第廿六條 民選議負ノ任期ハ六年トス任滿ツレハ自
然ニ解散ス但シ滿期ノ際開會中ニ遭遇スルト
キハ其開會ノ時至リ解散ス

第廿七條 未タ滿期ニ至ラストイハレ上諭ニ依リ之ヲ解
散スルコトヲ得

第廿八條 民選議負ヲ解散シタルトキハ六月以内ニ
再選ノ布告ヲ為ス

第廿九條 民選議負ノ選舉ハ各郡區ニ代選人

第二節 議負選舉

第卅一條 民選議負ヲ選舉スルニハ各郡區ニ代選人
五人以下ヲ選ハシメ代選人集會シテ更ニ民選
議負ヲ選舉ス

第卅二條 新メニ全議負ヲ選舉セントスルトキハ太政官
ヨリ少クモ六十日前某月日迄ニ議負ヲ選舉
スヘキ旨ヲ布告ス其補欠負ヲ選舉セントスル
トキハ三十日前布告ス

第卅三條 府縣長官ハ布告ニ原キ少クモ二十日前
某月日迄ニ代選人ヲ選ニ某月日迄ニ代選人

廳下ニ召集スヘキ旨ヲ布達ス其補欠負選舉

ノトキハ少クモ十日前月日定メ代選人ヲ召集ス

第五條 代選人ヲ選フノ法ハ府縣會議員撰擧ノ

法ニ準シ本郡区内ニ民選議員ノ撰擧権アル

モノ互ニ投票撰擧ス

第六條 代選人ノ任期ハ民選議員ノ任期ニ同シ

第七條 代選人ノ旅費日當ハ本府縣ニ會議員ニ

準シ地方税ヨリ之ヲ給ス

第八條 民選議員ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ代選人

全負ノ過半数ヲ得サレハ當選者ト為ルヲ得ス故

ニ最初ニ全負ノ過半数ヲ得ルモノナキトキハ再ニ投

票ヲ為シ猶過半数ヲ得サルトキハ最多數者二名ヲ

校萃シ若シ最多數者ニ同數者二名以上アルトキハ

其同數者ヲ悉ク校萃シ此多數者ノニ向ヒ更ニ投

票ヲ為サシメ比較多數ヲ以テ當選者ト定ム其同

數ナルモノハ年長ヲ取り同年ナルモノハ抽籤ヲ以テ之ヲ

定ム

第九條 代選人三分二以上參會セサレハ選舉會ヲ開ク

ヲ得ス但シ欠席者ハ他ノ代選人ニ托シテ投票スルモ

妨ケナシ

第十條 府縣長官ハ選舉會ニ臨ミ當選人ノ當

資格

否ヲ査定シ本人ニ當選證状ヲ付與シ一面其
姓名資格ヲ太政官ニ具申ス

府縣會議員中ヨリ兼テ公選ヲ以テ四人以下ノ補
助員ヲ定メ選舉會ニ臨ミ長官ヲ助ケ當選
人ノ當否ヲ調査ス

第**四**條 民選議員中其資格ヲ失スルモノアルカ又ハ
他ノ事故ニ依リ欠負アルトキハ更ニ補欠員ヲ選舉
ス

第**三**條 代選人中民選議員ニ當選スルモノアルカ又ハ
選舉人ノ資格ヲ失スルモノアルカ若クハ他ノ事故ニ

依リ欠負アルトキハ更ニ補欠員ヲ選舉ス

第**二**條 役員選舉并俸給日當旅費

第**一**條 民選院ニ議長一人副議長一人書記官
六人ヲ置ク

第**五**條 民選院議長副議長ハ議員中ヨリ先ツ五人
ヲ選舉セシメ其中ヨリ勅選シテ之ヲ定ム

第**四**條 民選院書記官ハ太政官ニ於テ之ヲ任ス

第**三**條 民選議員ハ手當トシテ東京滞在中心日金
三圓ヲ給シ遠地ノ者ハ差任官ニ准シ旅費ヲ

結ス

第~~五~~^七條 民選院議長二年俸三千圓副議長八百

千四百書記官^{三千圓} 以下千五百以上

ヲ結ス

俸結ヲ受クルモノハ旅費日當ヲ結セス

第~~五~~^八條 滞在日當ハ開閉前後各三日分ヲ結ス

第~~六~~^九條 民選院議員ノ旅費日當ハ開閉前後各三日分ヲ結ス

第~~七~~^十條 民選院議員ノ旅費日當ハ開閉前後各三日分ヲ結ス

第~~八~~^{十一}條 民選院議員ノ旅費日當ハ開閉前後各三日分ヲ結ス

第~~九~~^{十二}條 民選院議員ノ旅費日當ハ開閉前後各三日分ヲ結ス

第~~十~~^三條 選舉調査委員

第~~十~~^三條 毎年開會ノ初メニ於テ民選院各部ヨリ一

名ヲ選任シ選舉調査委員ト為シ議員選

舉ノ^{故障}争論當否ヲ調査ス

第~~十~~^四條 選舉委員中ニ於テ委員長一名書記

撰任シ委員中ノ事務ヲ管理ス

第~~十~~^五條 民選議員選舉ニ付^{故障}不服アリテ其權利ヲ

争ハント欲スルモノハ^{故障}不服ノ理由ヲ具シ選舉委員、控訴

スルコトヲ得

第~~十~~^六條 選舉^{故障}不服ノ控訴ヲ為サント欲スルモノハ^{同時}其

結ス

第~~五~~^七條 民選院議長、二年俸三千圓、副議長、貳

千四百圓、書記官、貳千圓、以下千五百圓以上

ヲ給ス

俸給ヲ受クルモノハ旅費日當ヲ給セス

第~~五~~^八條 滯在日當ハ開閉前後各三日分ヲ給シ

其餘自己ノ都合ヲ以テ滯在スルモノヲ給セス

第~~五~~^九條 民選議員ハ就任ノ前元老院議長、議官

列席ノ前ニ於テ定式ノ宣誓ヲ為スヘシ

第~~四~~^十條 民選議員ハ國會^{開會}中並ニ其前後七日間ハ重輕

罪ノ現行犯ニアラサレハ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス其非現

行^罪犯ニ係ル刑事被告事件存糾問ヲ要スルコト

アルトキハ豫^掛判事ヨリ理由ヲ具シ民選院議長ニ宛

本人出席ノ許可ヲ乞フヘシ

理由^書 該選舉會^{亦屬} 管理不^善 府縣長官^{差出ス} 申^出 府
縣長官ハ之カ^力 辨解書ヲ^作リ 選舉委員^ハ 差出ス^ト
ヲ得

第六十二條 選舉委員^ハ 選舉^不 控訴^狀 受取リタル
トキハ 委員會ヲ^開キ 必要ナル^{糾問} 爲シ^不 廢選
舉ノ^當否^ヲ 査定^シ 意見書ヲ^作リ 議長ニ^報告ス 議
長ハ 該報告ヲ^各 議員ニ^配布シタル^後 第二日^目ノ^總會
議ノ^初メニ^於テ 其^當否^ヲ 衆議員ニ^問ヒ 多數ニ^依リ
之ヲ^決ス^由 此^場合ニ^於テ 衆議員ハ^互ニ^討論ヲ^為ス
得ス 議長ノ^指示ニ^從ヒ 起立又ハ^票ヲ^以テ^可否^ヲ表

スヘシ^可否^同數ナル^トキハ 選舉適^當ナル^モト^認定シ

第六十一條 選舉^不 控訴^ニ 係ル^議員^中ニ^在ルトキハ

該^問題ノ^委員會ニ^出席スル^ヲ得ス 若シ^該議員^委

員^中ナル^トキハ 更ニ^委員長ヲ^撰任ス

第六十條 選舉^不 控訴ノ^總會議ニ^該控訴^ニ 係ル^議員ハ

出席スル^ヲ得ス

第六十九條 選舉委員會ハ^多數ニ^依テ^決ス^可否^同數ナル^ト

キハ^委員長之ヲ^決ス

第六十八條 選舉委員會ハ^選舉^不 控訴ノ^糾問^存被^告議

員ノ^弁解ヲ^聞キ又ハ^必要ナル^官吏ノ^出席ヲ^請求シ

又人民ヲ喚問シ又ハ證據書類ヲ徵收スルコトヲ得
此場合ニ於テハ都テ治罪法糾問ノ條件ヲ適用

第六十條

選舉ノ控訴ハ民選院ノ衆議ヲ以テ終審ト

第六十一條

民選院ノ衆議ニ依リ選舉不當ト認メラレタル

議負アルトキハ議長ヨリ太政官ニ上申シ更ニ補欠議

第六十二條

負ノ選舉ヲ為ス

第六十三條

選舉當否ノ審問中ニ係ル議負トイハル衆

決ヲ以テ不當ト認定スルマテハ仍ホ議負タルノ資格ヲ

第六十四條

選舉不^レ成^ル控訴ハ國會開會ノ日ヨリ三十日

以内ニ於テ為サレハ其効ナレトス其開會中補

欠シタル議負ニ對スル控訴ハ其撰舉セラレタル日ヨ

リ三十日以内トス

第四章 西院通則

第七十條

西院各全議員ノ半数以上出席セザレハ當

日會議ノ議定ヲ為スヲ得ス

第七三條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同数ナルヤ

ハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第七十四條 會議ハ停聴ヲ許ス議長又ハ議員五名以上

ノ同意ヲ以テ一時停聴ヲ禁止スルコトヲ得

第七十五條 國會議員ハ會議ニ方リ言論ノ自由ヲ有ス但シ

人ノ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ許サス

第七十六條 國會議員ハ議場説論ニ付各々本院ノ

規則ニ遵フノ外彈該糾問ヲ受クルコトナシ

第二節 役員職務

第一章 上下兩院通則

第七條 役員職務

第七條 各院議長官房ヲ置キ議長副議長及書記官

ヲ以テ之ニ充テ各院一切ノ事務ヲ管理ス

第七十八條 議長ハ各々其會議場ニ上席シ之ヲ總理シ議

場ニ於テ規則ニ背キ又ハ不應為ノ舉動アルモノハ之

ヲ制止シ猶其制止ニ從ハサルモノハ一時之ヲ議場外ニ退

去セシムルコトヲ得

第七十九條 議長ハ日々會議ヲ始終シ議案ヲ配布

シ問題ヲ定メ可否ヲ査定ス

第~~四~~^五條 議長ハ議事ノ規則ヲ説明シ可否決定ノ

方法ヲ指示シ問題ノ意義ヲ説明スルノ外發

議スルヲ得ス若シ自己ノ意見ヲ陳述シ議案ヲ可否

セント欲スルトキハ副議長ヲシテ上席セシメ自分ハ議負席

ニ列スヘシ此場合ニ於テハ諛問題ノ議決ヲ至ルマテ

上席ニ復スルコトヲ得ス

第~~七~~^八條 議長ハ日々散會ノ時ニ於テ次會ノ日時并ニ

議題ヲ定メ各議員ニ通知シ議場ニ揚ルス

第~~八~~^九條 議長ハ各部會并ニ委員會ニ臨シ意見ヲ陳述

スルコトヲ得

第~~五~~^三條 議長ハ議場整理ノ為メ要用ト認ムルトキハ一時

會議ヲ中止スルコトヲ得

第~~五~~^四條 議長ハ官省院廳府縣長官ト往復ス

第~~五~~^五條 副議長ハ議長ノ職務ヲ助ケ議長缺席スル

トキハ會議ニ上席ス

第~~十~~^六條 書記官ハ事ヲ議長ニ承ケ議院一切ノ事務

ヲ處辨ス其處務分課ノ規則ハ各院議長ニ於テ之ヲ

認可ヲ得テ施行ス

議案ノ謄寫印刷ヲ幹理シ各部ニ配布シ

會議ニ於テ議案ヲ朗讀ス

第~~四~~^五條

議長ハ議事ノ規則ヲ説明シ可否決定ノ方法ヲ指示シ問題ノ意義ヲ説明スルノ外發議スルヲ得ス若シ自己ノ意見ヲ陳述シ議案ヲ可否セント欲スルトキハ副議長ヲシテ上席セシメ自分ハ議負席ニ列スヘシ此場合ニ於テハ諒問題ノ議決ヲ至ルテ

上席ニ復スルコトヲ得ス

第~~六~~^七條

議長ハ日々散會ノ時ニ於テ次會ノ日時并ニ

議題ヲ定メ各議員ニ通知シ議場ニ揚ル

第~~八~~^九條

議長ハ各部會并ニ委員會ニ臨ミ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第~~五~~^三條

議長ハ議場整理ノ為メ要用ト認ムルトキハ一時會議ヲ中止スルコトヲ得

第~~五~~^四條

議長ハ官省院廳府縣長官ト往復ス

第~~八~~^五條

副議長ハ議長ノ職務ヲ助ケ議長缺席ス

トキハ會議ニ上席ス

第~~十~~^六條

書記官ハ事ヲ議長ニ承ケ議院一切ノ事務ヲ處辨ス其處務分課ノ規則ハ各院議長ニ於テ之ヲ定メ太政官

ノ認可ヲ得テ施行ス

議案ノ謄寫印刷ヲ幹理シ各部ニ配布シ

會議ニ於テ議案ヲ朗讀ス

二 議場ノ整理ニ議員ノ討論ヲ筆記シ可否ノ決議ヲ査定ス

三 投票公選ホリ負數ヲ檢シ其當否ヲ査定ス

四 議員ノ公文ヲ類別編纂シ議員ノ檢閱ニ

備ハ官報事務ヲ擔任ス

庶務課

一 議院建築修繕議場ノ粧飾ヲ理ス

二 議員ノ進退ニ関スル一切ノ事務ヲ掌理ス

三 議院ニ對スル願書建白書類ヲ掌理シ議院ト人民トノ往復文書ニ署名ス

四 議長往復ノ書面ヲ起草シ其出納ヲ幹ス

會計課

一 議院ノ諸費ヲ出納ス

二 役員ノ俸給議員ノ旅費日當ヲ規則ニ照シ

支給ス

三 議院一切ノ用度ヲ處辨ス

第七 警視官

第九條 警視官ハ事ヲ議長ニ承テ警部巡查ヲ

指揮シ議場ノ内外ヲ警戒ス

第^九條 警視官、議長、指揮ニ依リ議場ノ犯則者ヲ處分

第^四節 七部並ニ委員

第^九條 毎年開會ノ初メ各院ニ於テ總議員抽籤

ヲ以テ七部ニ分チ會議ノ餘暇ヲ以テ各部ニ集會ヲ
為シ豫メ配布セラレタル議案ヲ豫メ審査討論シ
テ議事ノ便宜ヲ計ル俾シ皇族ニ此限ヲ有

第^九條 各部ニ部長一人書記二人ヲ部員中ニ於テ投票
撰任ス

第^九條 部長ハ部内ノ議事ヲ整理シ議案及傳達書
ヲ受ケ之ヲ部内ニ配布シ書記ヲシテ部内ノ文書
ヲ整理セシム

第^九條 委員ハ常置委員臨時委員ニ類ニ分チ常
常置委員毎院各ニ組ヲ置ク各組皆七人ヲ以テ定
員ト為ス

第^九條 常置委員ハ毎年會議ノ初メ於テ各院ノ總會議
ニ於テ其議員中互ニ投票撰舉シ委員中委員長ヲ撰舉シ

會ニテ之ニ任ス

第^九條 常置委員凡ハ本院ノ會議ニ付スル議案

院

第九十四條 先ツ常置委員於テ之ヲ審査シ其意見書ヲ作
リ議長ニ報告ス

第九十五條 議案審査便宜ノ為メ常置委員各組分擔
スヘキ事件ヲ定ムコト左ノコトシ

第一組 行政司法警察民刑法ホニ関スル議案
第二組 行政財政ニ関スル議案

第九十六條 臨時委員ハ凡ソ總會議ニ付スヘキ議案ニシ
テ議長ニ於テ特別ノ審査ヲ要用ト認ムルトキハ臨
時之ヲ撰定ス

第九十七條 臨時委員ノ負數ハ五名以上十五名以下ニ於テ

議長之ヲ定ム

第九十八條 臨時委員ノ撰舉ハ議長ノ考案ヲ以テ左ノ三個
ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

一 議長ノ指名

二 總會議ノ投票

三 各部ヨリ一名乃至二名ヲ撰舉ス

第九十九條 臨時委員ノ負數及撰舉ノ方法ニ付意見
スル議員ハ十名以上ノ連署ヲ以テ其改正ヲ請求スルコ
トヲ得此場合ニ於テ議長ハ議會ニ問ヒ多數ニ

依リ可否ヲ決ス

院

第百九條 凡ソ委員ハ委員中ニ於テ委員長一名及書記一名乃至二名ヲ撰任シ委員中ノ議事ヲ整理シ筆記及庶務ヲ掌理セシム

第百一條 凡ソ委員ニ付セラレタル議案及シ其他ノ書類ハ委員會ニ於テ審査議決シテ意見書ヲ作り委員長ヨリ之ヲ議長ニ報告ス

第百二條 凡ソ委員會ニ於テ要用ト認ルトキハ他ノ議員及シ官吏ノ出席ヲ請求シ又ハ關係アル人民ヲ喚問スルコトヲ得

第百三條 凡ソ國庫歳出入ニ關スル議案ヲ審査スル委員會ニ於テ他ノ議員隨意ニ傍聴スルコトヲ得

第百四條 凡ソ委員會ニ於テ審査スル事件ニ關係アル内閣委員若クハ各省卿ハ何時タリモ委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第百五條 凡ソ委員ハ病氣ヲラサレハ委員會ニ欠席スヘカラス若シ三會以上續テ欠席シタルモノハ理由ノ如何ニ係ラス退職者ト看做シ直ニ欠員補充ノ撰舉ヲ為ス

第百六條 凡ソ委員過半数列席スルニテラサレハ委員

會ノ決議ヲ為スヘカラス

第百六條 凡ソ委員^會出席員ノ過半数ヲ以テ決ス可

否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス其サ數者

全員三分一以上ナルトキハ別ニ意見書ヲ作リ本意

見書ト共ニ議長ニ報告スルコトヲ得

第百七條 凡ソ委員會ノ日時及事件ハ其都度サクト

モ一日前ニ議長ヲ經テ太政官ニ届出ルモノトス

第百八條 凡ソ各部員及委員部長委員長書記

ノ姓名ハ議長ヨリ太政官ニ届出ルモノトス